国立民族学博物館
# 友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No. 273
2022.5-6

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2022 年 5 月 1 日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

実行委員長インタビュー　池谷 和信 先生

## 焼かなくても焼畑？ 移動する畑の可能性

◆企画展「焼畑――佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」 ◆会期：2022年6月7日（火）まで

焼畑というと「焼」という字が入っているせいなのか、日本では火入れの印象が強いんですが、じつは火入れは重要な要素ではないんです。例えば、パプアニューギニアのバナナ農園やエチオピアのマジャンギルの人びとは「焼かない焼畑」を営んでいます。焼畑とは、樹木を伐採したあとに作物を育てて、その後、畑を放棄して土壌の回復を待ち、また耕地として使う循環型の資源利用のこと。大切なのは休耕と畑の移動なんです。

佐々木高明先生がはじめて焼畑調査をおこなった熊本県五木村ではひとつの畑を五年間利用した後に二〇年ほど休耕期間を設けていました。同じサイクルで畑を毎年ひとつずつ増やすんですが、個々の畑では年ごとに異なる雑穀や芋類を栽培します。海外では二年目から休耕する畑が多いので、利用期間の長さは五木村を含む九州山地の焼畑の特徴だといえるでしょう。水田稲作であれば休耕しないし、水の確保が前提なので場所が固定される。それは人びとが土地の所有権を主張するような社会性にもつながるんだけれど、焼畑はそれとは異なる価値観をもっています。「焼畑」を英語にする場合、複数の表現がありますが、世界的には「shifting cultivation（移動する畑）」が使われることが多いですね。火入れはあくまでも整地をするためのひとつの方法なんです。

火入れ自体は農耕が始まる以前からあったと思います。火入れをしたあとの森には山菜が育ち、それを求めて動物もやってくる。焼畑においても畑から森への移行の過程で採集や狩猟など多様な活動がおこなわれます。それにソバなど畑の作物が蜜源となり、養蜂がおこなわれるケースもあります。焼畑は土地の生産性を高めるとともに、資源の多様性を生み出すことのできる耕作なのです。

森林が国土の八割を占める日本においては、もはや「原生林」と呼べる場所はありません。どこも何らかのかたちで人の手が加わっています。しかし適切に手を加えなければ、森は荒廃する一方です。人間がほどよい距離感で手を加えることで、長期的かつ循環的な資源利用を生み出す点が焼畑の知恵の巧みなところです。

焼畑と聞くと、山間部の辺鄙な場所で営まれてきたような印象がありませんか？ それは近年の調査の対象が面積規模の大きな焼畑だっただけで史料をさぐれば平地や島嶼部でも焼畑がおこなわれてきたことがわかります。また、熱帯に限らずフィンランドなどでも焼畑が営まれてきました。焼畑は地球上のどんな場所でもできる、非常に適応力のある資源利用の方法なのです。視点を変えれば、モンスーンアジアで営まれてきた水田稲作の方がローカルな農耕なのかもしれません。

食糧の獲得が地球規模で問題になっています。焼畑には我々が学ぶべき、持続可能な食糧生産のヒントが隠されているのではないでしょうか。（聞き手・事務局）

---

日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展

### 邂逅する写真たち
――モンゴルの100年前と今

**会期 2022年5月31日(火)まで**
**会場 特別展示館**

100 年の時空を越えた邂逅――出逢い――がテーマの特別展です。100 年前と現代のモンゴルを、写真をとおして紹介します。新しいモンゴルとの出逢いをお楽しみください！

---

企画展関連書籍
季刊民族学177号

### 焼畑と文明
――五木村から世界へ

焼畑とは人類にとってどのような営みなのか、佐々木高明の焼畑研究の原点の地、五木村から発信します。

会員価格　2,200 円（税込）
一般価格　2,750 円（税込）

アーカイブズ配信いたします！

第523回友の会講演会

## モンゴルとSDGs

開催中の特別展「邂逅する写真たち――モンゴルの100年前と今」の関連企画としまして講演会を実施しました。環境問題にとどまらず、グローバルな時代を生きる私たちの行末にまで話題が及んだ本講演会をアーカイブズ配信いたします。5月下旬公開予定です！

話者
**山極 壽一**
（総合地球環境学研究所所長）

**小長谷 有紀**
（日本学術振興会監事、民博客員教授）

本講演会は2022年4月2日にみんぱくインテリジェントホール（講堂）で開催しました。

友の会ホームページで公開します！
https://www.senri-f.or.jp/523tomo/

本館展示にふたつの設備が加わりました！

## みんぱくシアター と データステーション

ビデオテークの並ぶ一画には「みんぱくシアター」が仲間入り。大型スクリーンで臨場感あふれる映像をお届けする「シアタールーム1」と少人数用の「シアタールーム2～5」があります。いずれもみんぱくの映像番組をじっくり楽しんでいただけるスペースです。
東南アジア展示場横の休憩所には、標本資料の検索や展示をパノラマムービーで撮影したバーチャルミュージアムをご覧いただける「データステーション」を設置。
みんぱくシアターとデータステーションで博物館をもっと楽しく！

シアタールーム1。大型スクリーンで迫力ある映像を。

知りたい資料がすぐ調べられるデータステーション。過去の特別展のバーチャルミュージアムもご覧いただけます。

## 館内催し 会員先行予約のご案内

下記の催しには会場でのご参加に限り、維持会員、正会員、家族会員を対象に先行予約がございます。
会員先行予約は該当期間中に事務局までご連絡ください。会員先行予約が定員に達した場合は、一般受付をご利用ください。

催しの詳細、受付フォーム https://www.minpaku.ac.jp/event

### みんぱくゼミナール

第522回

**フランスのモン難民から考えるグローバル化**

講師　中川 理（民博准教授）
日時　6月18日（土）13:30～15:00（開場13:00）
会場　みんぱくインテリジェントホール（講堂）（定員160名）
※オンライン配信はございません。

申込期間

■友の会電話先行受付（定員30名）
対象：維持会員、正会員、家族会員
期間：5月16日（月）～20日（金）

■一般受付
・オンライン予約
期間：5月23日（月）～6月15日（水）
・当日参加受付（定員30名）

第523回
【コレクション展示「現代中国を、カワウと生きる ── 鵜飼い漁師たちの技」関連】

**鵜と人間**
――ウミウ産卵の謎解きから

講師　卯田 宗平（民博准教授）
日時　7月16日（土）13:30～15:00（開場13:00）
会場　みんぱくインテリジェントホール（講堂）（定員160名）
※オンライン配信はございません。

申込期間

■友の会電話先行受付（定員30名）
対象：維持会員、正会員、家族会員
期間：6月13日（月）～17日（金）

■一般受付
・オンライン予約
期間：6月20日（月）～7月13日（水）
・当日参加受付（定員30名）

### みんぱく研究公演

**伝承する人びと**
――北インド古典音楽の世界

演奏　サーランギー演奏：ナカガワ ユウジ、伴奏 グレン・ニービス
シタール演奏：アミット・ロイ、伴奏 クル・ブーシャン・バルガヴァ
解説　岡田 恵美（民博准教授）
日時　6月11日（土）13:30～15:50（開場13:00）
参加方法　①みんぱくインテリジェントホール（講堂）（定員130名）
②オンライン（ライブ配信）
※当日、みんぱくホームページよりご視聴いただけます（申込不要）。

申込期間

■友の会電話先行受付（定員25名）
対象：維持会員、正会員、家族会員
期間：4月26日（火）～5月6日（金）

■一般受付
オンライン・電話・メール予約
期間：5月9日（月）～6月3日（金）

### みんぱく映画会

みんぱく映画会・ワールドシネマ

**はじまりへの旅**

解説　菅瀬 晶子（民博准教授）
日時　7月9日（土）13:30～16:30（開場13:00）
会場　みんぱくインテリジェントホール（講堂）
※オンライン配信はございません。

申込期間

■友の会電話先行受付（定員30名）
対象：維持会員、正会員、家族会員
期間：5月30日（月）～6月3日（金）

■一般受付
オンライン・電話・メール予約
期間：6月6日（月）～7月1日（金）

申込方法

■友の会電話先行受付
会場参加のみ／申込先着順／本人を含む2名まで
【申込先】千里文化財団友の会事務局
電話 06-6877-8893（9時～17時、土日祝を除く）

■一般受付
申込先着順／本人を含む2名まで
みんぱくホームページ内のイベント予約サイトよりお申し込みください。オンライン以外の受付方法については、みんぱくホームページならびにフライヤーをご確認ください。

◎参加無料（研究公演、映画会への参加には会員証もしくは展示観覧券が必要です）。会場参加の方には入場整理券を当日11時から会場前にて配布します。

## 5月・6月のイベントスケジュール

**■特別展**
5/31(火)まで
日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展
「邂逅する写真たち――モンゴルの100年前と今」
**■企画展**
6/7(火)まで
「焼畑――佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」
**■コレクション展示**
6/30(木)～8/2(火)
「現代中国を、カワウと生きる――鵜飼い漁師たちの技」

---

**●友の会講演会【要予約】**
5/7(土)ヨーゼフ・クライナー、宇野文男、池谷和信
6/4(土)赤尾光春(＊)
**●みんぱくゼミナール【要予約】**
5/21(土)B. インジナーシ、港千尋、川瀬慈、島村一平(＊)
6/18(土)中川理
**●みんぱくウィークエンド・サロン**
5/8(日)鈴木紀、5/29(日)相島葉月
**●みんぱく映画会【要予約】**
5/5(木・祝)「大地の静脈」＜受付終了＞
**●みんぱく研究公演【要予約】**
6/11(土)
「伝承する人びと――北インド古典音楽の世界」(＊)
**●その他の催し**
5/3(火・祝)、5/4(水・祝)
ワークショップ「モンゴルのぼうしをつくってみよう」＜受付終了＞
6/26(日)音楽の祭日2022 in みんぱく(＊)

**【館外での催し】**
**■巡回展**
6/26(日)まで
巡回展「驚異と怪異―世界の幻獣と霊獣たち―」
会場:高知県立歴史民俗資料館

---

◆都合によりスケジュールを変更する場合があります。
◆予約の必要な催し、すでに満席になっている催しがございます。また、会場とオンライン配信の併用（＊印）で実施する催しもございます。詳細はホームページをご確認ください。
◆イベントの参加には必ず会員証をご持参ください。

## ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典

## 友の会講演会のご案内

**事前申込先着順です。**
**友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。**

**5月はオンライン配信がございません。**

会場とオンライン配信いずれかの方法でご参加ください。
ご参加は下記の会員種別のみなさまが対象です。

**維持会員、正会員、家族会員、ミュージアム会員、キャンパスメンバーズ**

・みんぱく館内でのご参加は、第5セミナー室(定員42名)が満席の場合、中継会場(第3セミナー室／定員17名)にご案内します。

・会場での聴講は、会員以外の方にもご参加いただけます(資料代500円)。

**第524回**

**【企画展「焼畑――佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」関連】**

### 佐々木高明を語る
――研究とその人物像

**講　師：ヨーゼフ・クライナー(ボン大学名誉教授)、宇野 文男(元福井大学教授)、池谷 和信(民博教授)**
**日　時：5月7日(土)13:30～15:00(開場13:00)**
**会　場：第5セミナー室での参加**
**※5月はオンライン配信はございません。**

国立民族学博物館第二代館長を務めた佐々木高明は、焼畑研究の第一人者、照葉樹林文化論の提唱者のひとりとして知られています。生前の佐々木とゆかりの深い話者3名による対談をとおして、研究者という側面にとどまらない佐々木高明の素顔に迫ります。

受付フォーム　https://www.senri-f.or.jp/524tomo/

**第525回**　参加方法をお選びください(会場もしくはオンライン)

### コサックの国で生まれたユダヤ人の大統領?
――ウクライナとロシアにおける民族問題の諸相

**講　師：赤尾 光春(大阪大学非常勤講師)**
**日　時：6月4日(土)13:30～15:00(開場13:00)**
**参加方法：①第5セミナー室での参加**
**②オンライン(ライブ配信)での参加**

2014年の「ユーロ・マイダン革命」とともに民族主義が台頭したウクライナでは今、ユダヤ系の大統領がロシアとの戦いで指揮を執っています。この驚くべき状況はどのようにして生まれ、どのような影響をもたらすのでしょうか。ウクライナとロシア、そしてユダヤ人との歴史的な関係を紐解き、複雑な民族問題の諸相を読み解きます。

受付フォーム　https://www.senri-f.or.jp/525tomo/

**第526回**　参加方法をお選びください(会場もしくはオンライン)

### アボリジニの「酒狩り」

**講　師：平野 智佳子(民博助教)**
**日　時：7月2日(土)13:30～15:00(開場13:00)**
**参加方法：①第5セミナー室での参加**
**②オンライン(ライブ配信)での参加**

酒は楽しい娯楽ですが、トラブルの種にもなります。アボリジニ社会では酒が好まれる一方で、「酒は毒」という語りがきかれます。こうした状況下で人びとはどのように酒を調達しているのでしょうか? 本講演では、オーストラリアの中央砂漠で狩猟の知恵を絞りながら酒を探求するアボリジニの「酒狩り」に迫ります。

受付フォーム　https://www.senri-f.or.jp/526tomo/

## 友の会講演会 実施報告

■第521回■2022年2月5日(土)

# 記憶が生まれる、記憶をつむぐ

## ――南米アンデス文明の文化遺産保護の道のり

関 雄二（民博教授）

南米ペルーからボリビアの一部にかけての地域は、古代アンデス文明が成立した場所として知られています。ところが、文明の痕跡である遺跡は、不法占拠や盗掘により、荒廃しています。

過去六〇年以上、この地で研究を続ける日本の考古学調査団も、この状態を憂慮し、さまざまな取り組みを行ってきました。しかし、必ずしも成功した例ばかりではありません。わたしが最初に発掘に参加したペルー北高地のワカロマ遺跡では、調査最終年に遺跡公園化を進めましたが、遺跡の範囲認定をめぐり、地元住民との対立を招いてしまいました。

この苦い経験を糧に、次の調査対象のクントゥル・ワシ遺跡では、金製品を含む出土品を展示する博物館を建設し、地元住民が運営管理する体制を整えました。とはいえ、考古学者であるわたしたちが知識とスキルを持ち、地元住民がそれに従うという上下関係を前提としたプロジェクトでした。

この課題を克服すべく、現在調査を進めているパコパンパ遺跡では、有形遺産である遺跡ばかりではなく、地元住民が主体となって保持してきた無形遺産を掘り起こしています。そこで重要になってくるのが、地元住民の記憶です。無形遺産は、これまで地元住民が継承してきた記憶の一種です。また遺跡や、それを調査するわたしたちとの間でも、新たな記憶が生まれつつあります。それらを学術的知識と結びつけることで、保存ばかりでなく、観光や教育といった活用面に、住民が主体的に関わることができるようになると考えています。

ペルー北高地に位置するパコパンパ遺跡の保存作業をおこなう地域住民（2016年）

■第522回■2022年3月5日(土)

# 病の語りにさぐる

## ――産後風と韓国女性の生活

諸 昭喜（民博助教）

ある国や文化、時代にのみ見つかる病気についてどのように理解をするのか、韓国の病を例に考えました。

産後に適切なケアを受けることができなかった時に発症する「産後風（サヌプン）」とよばれる病は、中国から伝来した医書にもとづいて、韓国の漢方医学（韓方医学）のなかで具体化されました。人びとは産後の体には病を起こす悪い気が入りやすいのだと考え、産後の回復期間中に「風」や「冷」が入ったから産後風を発病するのだと信じてきました。本講演では、産後風が現在も韓国の人びとの間で共有される病である理由を「風（パラム）」という言葉がもつ意味の曖昧さや幅の広さ、産後のケアを受けることができなかった社会的弱者としての女性の存在、病やその治療の根拠となる韓方医学、そして現在の産後ケアに関する施設やサービスの充実という四つの点から検討しました。

ある文化を共有する人びとが共通してもっている身体や病に関する概念は、その文化を集約して見せているといえますし、医学のあり方も社会によって条件づけられていると考えることができます。人びとは病とその治療について経験的に蓄積された知識をもっていますが、それは長い歴史のなかで姿を変えながらも、個々の文化にもとづいて形づくられたものです。

あわせて本講演では、冷え性、農夫症、うつ病などの日本の事例も簡単に紹介し、病に対する人びとの理解は、その社会や文化と深く結びついていることを参加者と話し合いました。

農作業がひと段落して間食をとる結の仲間（1981年）

本紙掲載の情報は、2022年4月20日時点で決定している内容です。新型コロナウイルス感染症の影響等により急遽予定を変更する可能性があります。

### お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

**国立民族学博物館友の会**

**公益財団法人 千里文化財団**

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10-1（国立民族学博物館3階）
電話：06-6877-8893（平日9:00～17:00）
FAX：06-6878-3716
e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

### 国立民族学博物館 最新情報

ホームページ
https://www.minpaku.ac.jp

Facebook
https://www.facebook.com/MINPAKU.official

### 国立民族学博物館友の会 最新情報

ホームページ
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/

Facebook
https://www.facebook.com/minpakutomo/